

平成27年度 小平第二みどり作業所 事業実績報告書

1、はじめに

小平第二みどり作業所では平成23年度以降利用定員を超えた状態が続いているが、地域のニーズに出来る限り対応するため、利用希望者の受け入れを継続してきた。平成28年3月31日時点で利用者数は46名となったが、利用率が80%未満であり、スペースや活動の適正規模から50名までの受け入れが可能と考えている。27年度はこの人数を基準として受け入れ態勢を整え、7名の新規利用者を受け入れたが、就労ステップアップを含め7名の退所者があり、結果として年度内の利用者数の増減はなかった。

また、利用者の増加に対応するためには職員個々のスキルアップが必要となるが、昨年度に職員が大幅に入れ替わった為、基本的な支援技術の向上から始めることとなった。日々の実践を通じ一人ひとりの利用者を理解し信頼関係を築いたうえ、丁寧な対応を行うことを中心に取り組み、全般的に支援レベルの向上が図られた。また、成年後見制度を通じての権利擁護の研修を行い、支援における基本的な姿勢について自己の業務を振り返る機会も得ることが出来た。一方で、日常業務における事務的な伝達ミスなどにより情報共有が行われず、支援が円滑に行われない場面も多く見られた。職員個々のスキルアップと同時にチーム支援の力もつけていかなければならず、28年度以降引き続き取り組んでいきたい。

利用者の就労支援においては工賃向上のための重点目標としてパン製造事業の収益拡大を掲げた。商品開発、そのための製造機器購入、営業活動による販路拡大を行い、前年度比1.3倍の売り上げを具体的目標としたが、実際は日々の製造に追われることになり、1.1倍と伸びはあったものの目標には達することが出来なかった。

小平第二みどり作業所は多様な利用者のニーズに丁寧に応えながら、工賃向上を目指すという二つの命題をいかに両立させるかという課題に面している。日常場面での取り組みだけでは解決できない部分もあり、事業再編という組織的な取り組みが必要な時期に来ている。

2、事業主体

- | | |
|------------|-------------------|
| 1) 施設名 | 小平第二みどり作業所 |
| 2) 事業種別 | 就労継続支援 B 型 |
| 3) 所在地 | 東京都小平市天神町3-7-16 |
| 4) 運営主体 | 社会福祉法人 未来 |
| 5) 利用定員 | 40名 |
| 6) 利用現員 | 46名(平成28年3月31日現在) |
| 7) 法人認可年月日 | 平成14年12月11日 |
| 8) 事業開始年月日 | 平成20年4月1日 |
| 9) 職員 | 14名(平成28年3月31日現在) |

3、基本理念

一人ひとりの自己実現の支援。
互いの尊厳の尊重と信頼関係の構築。
安心と希望の持てる生活。

4、利用者の支援

1) 就労支援

(1) 基本方針

- ① 利用者の個々の特性にあった就労支援事業の活性化
- ② 生き生きと働ける職場
- ③ 職業指導の充実
- ④ 賃金の保障
- ⑤ 就労移行支援の実施

(2) 基本方針に対する評価

① 利用者の個々の特性にあった就労支援事業の活性化

朝礼や昼礼で利用者の希望を聴取し作業配置を行った。全体的には希望に沿った作業提供ができたものの、利用者数が増加したことにより、人気のあるクッキー配達作業などに関しては一人ひとりの希望に沿えない場面もあった。

② 生き生きと働ける職場

楽しみながら作業ができる雰囲気作りを心掛けた。時期によって作業に追われてしまうことはあったものの、全体的には良い雰囲気で作業を行うことができた。

③ 職業指導の充実

日々の活動を通して、一人ひとりがやりがいをもって仕事に取り組めるような指導を行うことができた。しかし、自主製品の製造量が増えたことや職員体制が整わない状況が続いたことにより、一人ひとりの可能性を伸ばすような指導は不十分であった。

④ 賃金の保障

昨年度と比べ利用者の出勤率が増えたことから、工賃の支払総額が前年度比で約22万円の増額となった。月額平均工賃は12,623円で前年度の12,235円から388円の増額となった。時給換算では240円と前年度から9円の増額となった。

⑤ 就労移行支援の実施

3名の希望者の内、2名が就労継続支援A型事業所「みくま」へステップアップした。内1名は生活リズムを整えることに時間を費やした為、就労移行が実現できなかった。

(3) 作業別実施状況

① クッキー製造、販売

年間の売上が前年度比で約100万円増となり、原価率も0.02%削減することができた為、純利益が約63万円増となった。3月には1か月あたりの売上としては過去最高の売り上げ(約81万円)を記録することができた。新商品はクッキー2種類、シフォンケーキ1種類、マフィン2種類を新たに開発した。売上の増加に伴い、時期によって作業に追われてしまうことはあったものの、年間を通して利用者一人ひとりのペースや特徴に合った作業を提供することができた。

② パン製造、販売

年間の売上が約260万円で前年度比の1.1倍となり、目標である1.3倍を達成することはできなかった。しかし、前年度と比べ売上は増加しており、新商品も6種類開発することができた。また、小平商工会が認定している「コダイラブランド」に新商品であるブルーベリー畑が認定された。さらに年度後半には日立系列会社内での販売を開始することができた。製造技術の向上については利用者、職員共に一定の技術向上を図ることができた。28年度は製造個数を増やすことを目標としたい。

③ 公園清掃

小平市から児童公園の清掃を法人全体で12か所受託し、内6か所を当事業所で清掃した。天候の悪い日など清掃作業を実施できない日があったものの、その分の清掃を翌週に実施するなど計画的に清掃作業を行うことができたことにより、年間を通して公園利用者が過ごしやすい環境を保つことができた。

④ 緑化推進事業

ワークセンター夢の樹(就労継続B)、夢の樹みどりと連携して、小平市より受託した鎌倉第1公園の花壇の保持、清掃作業を2週間に1回実施した。植え替えの際には季節に合った花を選択し、年間を通して清潔な花壇を保持することができた。

⑤ ポスティング作業(受注作業)

年間を通して継続的に作業の受注ができたことに加え、昨年度と比べて単価の高い作業が増えたことにより、前年度比で1.6倍の売上となった。

(4) 店舗販売

目標金額

	売上目標	目標純利益
1日	10,000円	7,000円
1か月	200,000円	140,000円
年間	2,400,000円	1,680,000円

実績(千円以下切り捨て)

	売上	純利益
1日	14,000円	10,000円
1か月	280,000円	210,000円
年間	3,390,000円	2,542,000円

【売上内訳】クッキー・・・約1,720,000円/年間
パン・・・約1,670,000円/年間

2) 生活支援

(1) 基本方針

- ① 日中活動の保障
- ② 豊かな生活の支援
- ③ 利用者一人ひとりの主体的な生活の支援
- ④ 個別支援計画に基づいた計画的な支援
- ⑤ 利用者への相談支援
- ⑥ 安心できる将来への支援

(2) 基本方針に対する評価

① 日中活動の保障

年間で244日開所し、利用者一人ひとりの日中活動を保障できた。また、長期間欠勤が続いている利用者に対して事業所側から連絡を取り、本人に無理のない範囲で定期的に通所を促した。

② 豊かな生活の支援

月1回のレクリエーションや月2回の音楽教室、また、11月に実施した一泊旅行を通して利用者一人ひとりの余暇活動を保障することができた。レクリエーションの内容もお台場散策や競馬博物館見学、法人合同忘年会開催など、利用者が選択して参加できるよう幅広く企画した。また、希望者が参加する夕方生活支援事業ではお風呂やボウリング、スポーツなどの余暇活動を行い、一人ひとりの経験の幅を広げることができた。

③ 利用者一人ひとりの主体的な生活の支援

一人ひとりが生活の主体者として存在するという理念の共有を職員間で行い、支援に取り組んだ。生活の全体は把握できないが、事業所内の生活においては出来る限り本人の意思を尊重するよう努めた。

④ 個別支援計画に基づいた計画的な支援

個別支援計画をケース記録ファイルの見開きに添付し、常に確認できるようにした上で日々の支援を行った。一部の利用者については計画に基づいた支援が実践できたものの、総体的に計画的な支援は不十分であったといえる。以上の反省を踏まえ、平成28年度からは個別支援計画に基づいた支援が実践できているか日々確認できるよう、個別支援計画実施記録を残して

いく予定である。

⑤ 利用者への相談支援

利用者からの相談の中で最も多かったのが、利用者間の人間関係に関する相談であった。このような相談に対して、人員配置などの際は互いの相性を考慮した配置を行い、また必要に応じて職員が間に入り、利用者同士が良好な関係を築けるよう支援した。事業所内での事に関する相談については丁寧な対応が行えたが、生活全般、将来設計などの広範囲な知識とネットワークを要する相談については対応が不十分であった。

⑥ 安心できる将来への支援

個別面談などを通じて、本人や家族に対して成年後見制度の説明や法人後見センターなどの情報を提供していく中で、徐々に将来の生活に関する話が出始めている。将来像を一緒に考える関係性が作れつつあるが、一人ひとりの将来像について十分な共有が出来ていない利用者も多く、今後時間をかけて取り組んでいく必要がある。また、一方で居住の場としてのニーズの高いグループホームの不足は深刻であり、安心できる将来像を描けるほど社会資源や生活環境が整備されていないことも事実である。事業所としての取り組み以外に、社会的な取り組みにどのように関わっていくかも求められる。

(3) 生活支援プログラム

①運動プログラム

今年度は体重の減少や健康維持を目的としたプログラム参加者が4名であった。この内3名はプログラム開始後からほぼ体重に変化がないが、内1名については体重が増加傾向にある為、家族と連携して食事のコントロールやプログラム内容の変更について検討していく必要がある。一方、余暇活動を目的とした参加者は2名となり、共に本人のペースで活動を行うことができた。

また、今年度から活動日誌の記録と万歩計の使用を本格的に開始した。これらを導入したことで利用者の活動内容を把握しやすくなり、支援者オリエンテーションなどを通じて一人ひとりの特徴や課題の共有化が図れた。今後はこれらの記録を活用してプログラムの質の向上を図っていききたい。

②運動以外のプログラム

個別面談を通じて、健康保持以外の活動内容についてアンケートを実施した。実施した結果、トランポリン、マラソン、エアロビクス、リトミック、フォークダンス、風船バレーなどの希望が出た。この内トランポリンとエアロビクスの実施に向けた検討を始めたが、未だ実施には至っていない。

(4) 福利厚生

- ① 月1回レクリエーションを実施。
- ② 月2回の音楽教室実施。(7月、10月に開催された合同発表会に参加)
- ③ 11月に1泊旅行を実施。(那須塩原方面)
- ④ 7月に健康診断を実施。

5、開所状況

1) 開所期間 自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日

2) 開所日数

- (1) 開所日数 5日間
- (2) 開所時間 午前9時～午後4時
- (3) 年間延開所日数 244日
- (4) 平均作業時間 4時間

6、利用状況

- 1) 利用者延人員 7, 994人
- 2) 1日平均利用人員 32.8人
- 3) 体験実習者延人員 102人
- 4) 1日平均実習人員 0.4人

7、利用者状況 (平成28年3月31日現在)

1) 年齢

- 19歳以下 3名
- 20歳以上30歳未満 18名
- 30歳以上40歳未満 12名
- 40歳以上50歳未満 8名
- 50歳以上60歳未満 3名
- 60歳以上70歳未満 1名
- 70歳以上 1名

2) 障害の状況

- 愛の手帳 39名 (内5名身障手帳、1名精神保健手帳所持)
- 身体障害者手帳 7名 (内5名愛の手帳所持)
- 精神保健福祉手帳 5名 (内1名愛の手帳所持)
- 手帳不所持 1名

3) 通所手段

- 送迎車利用 23名 (内6名家族送迎、3名交通機関と徒歩、4名徒歩と併用)
- 交通機関利用 5名 (内4名送迎及び徒歩、1名送迎、2名徒歩と併用)
- 徒歩等 26名 (内2名送迎、2名交通機関、2名送迎及び交通機関と併用)
- 家族送迎 7名 (内6名送迎と併用)

4) 居住状況

- 管内居住 39名 管外居住 7名

5) 性別

- 男性 26名 女性 20名

8、利用者工賃

- 平均工賃 1人月額 : 12,623円 (前年度 12,235円)
- 日給 : 815円 (前年度 792円)
- 時給 : 240円 (前年度 231円)

9、職員配置 (平成28年3月31日現在)

- 管理者 1名 常勤1
- サービス管理責任者 1名 常勤1
- 職業指導員 5名 常勤5
- 生活支援員 7名 常勤4、非常勤3 (常勤換算1.5)
- 目標工賃達成指導員 1名 常勤1 (常勤換算1.0)

10、防災

年3回9月、2月、3月に防災訓練を実施した。